

## 平成 28 年理事長年頭挨拶

理事長 江部和人

新年明けましておめでとうございます。

皆様には良い年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

我が国は急速に進む人口減少や少子高齢化を背景として、医療、介護制度の改革が課題となっております。消費税のアップや医療費の適正化、雇用の安定を始め将来にわたって医療の質と財源確保の様々な施策が講じられておりますが、医療・福祉・介護を取り巻く経営環境は以前にも増して厳しいものと思われまます。

厚生労働省は 2025 年の団塊世代が後期高齢者に達する時期を見据えて、各種制度や診療報酬等での基盤づくりを進めて行く必要があります、社会保険費用の増大等による医療費抑制は不可避であるとしております。今後も、施設から地域、病院から在宅、医療から介護への流れは更に加速するものと考えられます。

このような背景の中、今年 4 月には二年に一度の医療報酬改定が行なわれ、改定率は実質二回連続のマイナス改定となります。当院としても前回改定後より介護療養病棟から医療療養病棟への移行、特殊疾患病棟の廃止、新たに「急性期後の受け入れ」「在宅患者急変時の受け入れ」「在宅患者復帰支援」を目的とする地域包括ケア病棟への一部病棟転換、また在宅療養や生活支援とし訪問看護ステーション、訪問リハビリ、居宅の充実を継続的に取り組んでおります。

今年 1 月より整形外科山崎幸男先生を常勤医師として迎え、整形外科診療の充実を図ります。当法人も開設以来地域のニーズを見据え、各種事業を拡張し運用してまいりましたが、各事業ともスペースの限界に達し、病院本体の構造的改革が必要となっており、病院の増築、改修及び外来、職員駐車場の整備計画を行ってまいります。さらに、職員雇用の安定、働きやすい環境の整備にも重点を置き、勤務負担の軽減、教育の充実、職員休憩室、食堂の改修等も行います。

また、複合施設住宅型有料老人ホーム「こころはす西蒲」を医療・介護サービスの複合施設として開設し一年余り経ちましたが、おかげさまで順調に推移しております。

昨年 8 月デイサービスの利用定数を 20 名から 30 名へ増員、また病院から退院への受け皿、在宅支援の充実を目的とし、ショートステイ定員を 20 名から 40 名に今年 8 月を目途に隣接した場所に建築整備致します。

当法人としては、地域における中小病院としての医療機能の強化、病院・病床機能の役割分担・連携の推進、在宅医療の充実による地域包括ケアシステムの推進に向け努めなければならないと考えます。

地域のニーズをしっかりと見据え、地域住民の方々が住み慣れた地域において尊厳を持ち安全、安心して生活できるように、病病、病診、関係機関、行政と連携を図り、「治す」「支える」「予防」という観点から職員一丸となり、堅実な病院運営の下、原点の地域医療に徹し取り組んでまいります。

皆様にとりまして、最良の年になりますことをご祈念申し上げ年頭の挨拶と致します。